

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：京都産業大学（総括責任者：大城 光正）

プロジェクトの概要

(1) 推進室の体制と具体的な活動内容

①担当副学長による室長、9学部の教員及び職員による委員、4名の職員からなるダイバーシティ推進委員会を設置し、②京都産業大学型ポジティブ・アクションを実施して女性研究者数を確実に増加させ、大学全体の意識改革のため③意識啓発活動を行う。

さらに、④研究支援員制度、⑤柔軟な勤務体制、⑥保育費支援制度などによるライフイベント期の研究者支援、⑦休業中の研究費執行を容認する復帰支援策を講じることで、研究と私生活の調和を図り、⑧女子学生を対象に京都産業大学の実績を生かしたキャリア形成支援を実施して、女性研究者の裾野拡大に努める。

(2) 研究を支援する者の配置計画

ライフイベント期にある男女研究者に対し、大学院生・学部生による研究支援員を 10～15 名程度配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
S	s	s	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長の強いリーダーシップの下、学長宣言により男女共同参画の推進とダイバーシティの実現に係る全学的な方針を明確にし、担当副学長・理事を委員長とする「ダイバーシティ推進委員会」を創設し、本委員会の主導により女性研究者の活躍促進のための基盤整備、女性専任教員の積極的な採用、構成員の意識啓発等を推進した。特に女性専任教員が少ない理系部局では当初計画していなかった女性限定公募を実施し女性専任教員の採用を進めるなど、全学一体となって女性研究者の活躍促進に努め、女性研究者の採用数、採用比率、在籍比率における所期の目標をすべて上回り達成したことは高く評価できる。今後は、理系部局の女性教授、女性准教授を積極的に増加させることを期待する。

- ・ **目標達成度**：新規採用者に対する女性比率、女性研究者在籍比率、特に女性専任教員が少ない理系3部局や経済学部を主な対象とした女性専任教員の採用数に係る目標をいずれも上回り達成しており高く評価できる。
- ・ **取組**：学長のリーダーシップの下、当初計画していなかった専任教員のすべての公募における女性優先公募の実施、理系2部局における専任教員の女性限定公募の実施により、目標を上

回り 14 名の女性専任教員を採用したことは高く評価できる。また、アンケート調査に基づき、女性研究者の要望が高かった両立支援のための環境整備に幅広く取り組んだことも評価できる。

- **取組の成果**：環境整備、意識改革、女性研究者の裾野拡大のそれぞれにおいて実効性の高い施策を実施し、女性研究者が活躍できる基盤を構築することにより、女性専任教員 14 名の採用、女性専任教員 6 名の教授職への昇任を進め、また、学部長、国際交流センター長、図書館長への女性の登用を実現したことは高く評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、担当副学長・理事を委員長とし、部局代表教員、事務部長、外部委員から成る全学組織である「ダイバーシティ推進委員会」を創設し、教員人事に関する部局の主体性、自立性を尊重しつつ、「ダイバーシティ推進委員会」の主導により全学的な方針を具体化する実効性のある実施体制を構築したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後は、本事業の推進母体として「ダイバーシティ推進委員会」の下に設置した「ダイバーシティ推進室」を恒常的組織として存続させ、十分な予算を確保し取組を継続しており評価できる。女性教員は着実に増加しているが、特に理系部局においてはその絶対数は未だ少なく、今後の継続的な女性教員採用を期待する。